

平成 20 年「京都市生涯学習市民フォーラム」講演会

「クオリア時代～グッとくるまち 京都を創ろう～」

講師:京都市生涯学習市民フォーラム会長 堀場 雅夫氏(株式会社堀場製作所 最高顧問)

日時:平成 20 年 11 月 11 日 午後 2 時 30 分～4 時

場所:京都産業会館シルクホール(京都市下京区四条通室町角)

◆「クオリア」とは

今日の話はみなさんと一緒に進めたいので、まず質問ですが、「クオリア」ということを知っている方、お手を挙げてください。・・・おひとり、ほとんど無きに等しいですね。まあ、そんなもんやと思います。私も 2、3 年前にこの言葉を知りました。字引やインターネットにも出ています。この正式の日本語訳は「質感」です。しかし、「クオリア」よりもどういう意味かわかりにくいということで、私の感じてる日本語訳を付けました。これが今日の副題である「グッとくる」です。「グッとくる」のが「クオリア」なんです。そういうまち、「京都のまちを創ろう」というのが今日の本題であります。

「グッとくる」というのは、「感激」「感動」です。単に瞬間的なものでなく、自分の体にバシッとインパクトを与えられる「感激」「感動」が「クオリア」なんです。私はこの言葉が大変好きなものですから、最近よく使わせていただいています。

「きみのその一言、グッときたなあ」っていうことがありますね。あるいは、すばらしい景色を見て「ああ、これで今まで自分がいろいろぐちゃぐちゃ考えてたことが取り去られた」っていうようなことがありますね。そういうことが「クオリア」ということなんです。

また皆さんにお聞きしたいのですが、そういう「感激」とか「感動」、「グッときた」ということが、この 1 週間以内にあった方、手を挙げてもらえますか？・・・ありますねえ。しかし、全体の 3 % くらいですかね。それでは、この 1 ヶ月ではどうですか？・・・ちらほらですね。では、この 1 年間に「グッときたなあ」というのが 1 回でもあった方どうですか？・・・それでも、15 % くらいですかね。では、残りの 80 % から 85 % くらいの方は、この 1 年間に 1 回もグッときたことがない？(笑) ない？そんなんよう生きてはりますなあ。(笑) 僕は 1 週間に 1 回、いや、1 日に 1 回なかったら死にそうになるんですわ。

いや、ほんまにねえ、人間が生きてるっていうのは、何か目標があるとか、何か考えて「よし、今日やったるか」とか「あいつに負けへんとか」とか「よし、今日は 1 日でこいつやったるか」というふうな気持ちがあって、そういう気持ちをもっていると「やりやがったな!」とか「よし、あいつに負けるか!」とか「これおもろいな」とか「え!こんなことあったん?」とか、そういうことは必ず感じるわけですよ。そやから、「クオリア」レベルまではいかないにしても、街を歩いてたって、そうでしょう。僕は今ここに来るときでも四条通を来たら、きれいな女の人がいあって、「グッとくる」にはいかないにしても「グッと」ぐらいいきましたねえ(笑)。で、ちょっと早足で歩いて後ろを振り返ってみたら、後姿よりは、思いの外、もひとつでしたよ(笑)。

しかし、そういうことで人間は生きてるんですよ。何の感激もない、何の感動もない、何にもなく生きてるっていうのは、これは悪いですけど「炭酸ガス発生器」なんです(笑)。

今えらいCO₂が悪者になっていますが、時間があつたら、この話も大いに論議したいんですが、とにかくCO₂を発生するだけでは悲しいですね。

やっぱり人間というのは、何か自分が生きているということ自体、何か生きがいとか働きのがいとか、あるいは人のために尽くしたいとか、いろんな感情を持って生きているわけです。

◆京都のまちに生まれて

特に京都の人っていうのはしんどいと思います。京都に生まれたばかりに非常にしんどい。それはなぜかと言いますと、京都の市民、府民は京都のためだけに生きてられへんのですわ。京都に生まれた瞬間において、日本のために生きると思わんといかんのです。私は京都生まれ京都育ちですし、おやじもおふくろもずっと京都なんで、京都びいきやから言うことと違うんです。私は日本中、世界中を廻りましたが、やっぱり京都というところは特殊な存在なんですよね。特殊というか、もちろん日本のルーツでもあるし、人間としてこれから生きていくための何かルーツが京都にあるというふうに思いますね。したがって、京都に生まれた人というのは、京都だけのために思ってたらいかんのです。日本の国のことを思い、あるいは世界の人々のことを思い、そしてそれらの人々が元気な人生を送れるように京都というのはモデルにならんといかんのです。京都が萎びたら、日本も萎びるし、世界全体も萎びるんです。

京都っていうのは、すごいバランス感覚があつて、本当に古い伝統を持ち、超近代的な産業を持ち、すばらしい自然を持ち、しかもまた人工的にもすばらしいまちを創り、こんなにバランス感覚のとれたまちはないし、そのまちっていうのは、我々京都人が守っているわけです、生きているわけです。

ですから、皆さん方、ぜひ今日を限りにまず「感激」「感動」ということをもっと大切にしてほしい。いろいろ見てたら、草木ひとつに至るまで、鴨川の流れひとつ見るにしても、比叡山見るにしても、やっぱり「感激」「感動」はありますよ。

◆「五感」「五欲」を研ぎ澄ます

「感激」「感動」はどういうことで生まれるかというと、まず「五感」ってありますね。ピンと感じる「六感」というものもありますが、生理学的にいうと「五感」というのは、「目でものを見る」「鼻で匂いを嗅ぐ」「舌で味をみる」「耳で音をきく」「皮膚で固さやあつたかさを感じる」。こういうものを称して「五感」といいますが、これを研ぎ澄ます。すばらしい音楽を聴いて感激することがありますね。おいしいものを食べて、すばらしいなあと思うことがありますね。いい香りを嗅いで、香りから人柄がわかるというようなことがありますね。それが「五感」です。

それともう一つ、まず感度が悪かったら、なんぼええ匂いの人に来て、きれいな人が来て、いい音楽を聴いても、おいしいものを食べても、感じひんのやったら、「グツと」きませんわな。そやから、やっぱり、これもどんどん研ぎ澄ましていかんといけません。そうすると本物と偽物、いいものと悪いものがわかってくる。それで、いいものを追求していったら、今まで考えてた域を超えたとき、「グツと」くるんです。自分の考えてた限界を

超えたんやと思った瞬間が、そこが「クオリア」なんです。それには、自分の限界をある程度知ってないとだめですよ。

もう一つは「五欲」があります。一番大きい欲は「食欲」ですね。次に「性欲」。次に「物欲」それから「名誉欲」、いろんな肩書きがほしいとかありますね。それから「征服欲」です。「あいつに負けん、あいつより上に立とう」あるいは「この山を踏破しよう」とか「この仕事を一番にわしがやってのけよう」、これが「征服欲」で、「五欲」です。

この「五感」と「五欲」が研ぎ澄まされたときに「クオリア」っていうのは起こるんですね。一般的には「欲が深い」というのは悪口ですが、僕はそうは思いません。やっぱり人間っていうのは欲が深くないといかん。ただし人を泣かす、あるいは、いじめたり、人に不快感を与えたり、そういうことをやって、五欲を満足させるっていうのは、これはとんでもない。倫理観とか道徳観っていうのは、これは一番前提にあるんですよ。

しかし、人を困らせたり、泣かせたりするのではなく、「おいしいものを食べたい」「セックスがしたい」「自分の働き相応のものを得たい」あるいは「自分にしっかりしたタイトルがほしい」とか「あいつに負けたくない」とか、こういう欲というのは、ものすごい大事なんです。

この「五欲」とか「五感」は、皆さん方が努力して得られたものと違うんです。生まれてきたら、神さんがそういうものをつけたんです。全部神さんが人間にそういう機能を付けてくれたんですから、神さんのために一生懸命しようと思ったら、そういう五つの欲や五感を発揮せんといかん。そやから自分のだけやなしに、神さんのためにしっかりとやってください。そうすると、この「クオリア」というのがグッと動きだすんです。

実際、世の中で一生懸命やっている人を調べてみると、意志が強くリーダーシップを持って、人のお世話をちゃんとするとか、立派な政治をするとか、立派な企業人であるとか、そういう人を見たら、やっぱりそういう人は「五感」「五欲」というものをしっかり握っていますよね。しかもそれを自分のためだけでなく、多くの人々のために、あるいは地域社会のために、大きくは人類のために「五感」「五欲」というもの使っています。

人間というのは、「感激」とか「感動」を受けた場合に、「グッと」きたときは、「A10（エイ・テン）」という神経が動き出して「アドレナリン」や「ドーパミン」という神経伝達物質がでてくるんです。そしたら、「よし、いくぞ！」という力が出てくるんです。そやから1年間、「感激」「感動」がない人は、ほとんど「よし、いくぞ！」がなく、「今日もまた1日太陽が出たか」「太陽が天井にきたか」「ちょっとだけ飯食おうか」「日が沈んだか」「寝よか」という具合で、そういうことですよ、ほんとに。そやから、1日に1回くらい「グッと」きたら「よし、いこか！」ってなるんです。朝「グッと」きて、昼間また「グッと」きて、夜「グッと」きたら最高ですけど、そんな「グッと」「グッと」きてたらお腹減るし(笑)、ほどほどがいいですけど、やっぱり人間というのは「感激」「感動」によって活力がでるんです。

そういう人たちが集まっている地域、地域社会、あるいは「京都市」。市民がみんな「よし、いこか！」と思ったら、京都のまちっていうのは、すごいまちになりますよ。少子高齢化って言われてますが、子ども少なかったってよろしいやん。年寄り多かったって構へんやん。そんなことガタガタいうことないんですよ。みんな「元気があるか、ないか」や。

そういうことで、世の中は自然体でいくのが大事なんです。あんまり無理して、「子を作

れとか、作るな」とか、「じいさん、はよ死ね」とか、そんなことどうでもいい。神さん、ちゃんとやっとりんです。あんまり増えすぎたら減らそか、とか。減ったら増やそか、とか、ちゃんとやっとりんです。そやからこっちは、それを受けて立つ、与えられたものを常に受けて立つ。それなりに世の中っていうのは、どないでもなるんです。

◆人間の能力

今、いろいろな経済上の問題で、ドルが90円になったとか、100円になったとかゆうてますが、私なんか全然堪えへんですよ。私が物心ついたとき、1ドルは2円やったんですよ。それで戦争が済んで、仕事をやって「これはアメリカに行かんかったら、日本でガタガタしててもしょうがない」と思って、昭和30年に「どうしてもアメリカ行きたい」と思うんですが、「中小企業のおやじがアメリカ行って何するんや」って言って、ビザがおりない。それをなんとかかんとかごまかして、資本金もゼロようけ付けたり、従業員も後ろにゼロもうひとつ付けたりして、ゼロやから付けてもよろしいやん（笑）。それで申請してようやくビザ取ったんです。それでアメリカへ行った。でも、1日12ドルしか割り当てがないんです。なんぼ安いとこ泊まってもホテルは5ドルか6ドル、残りの6ドルか7ドルで飯三食食って、国内も移動せなあかんとなると、とてもじゃないんで、闇ドルを米兵から買いました。それが500円ですよ。それから、どんどんドルが安くなって、今100円きれてるような状態ですが、2円から500円やから、250倍になっても死なへん。

人間っていうのは、与えられた条件に対してちゃんと適応するようにできてるんです。これが人間の素晴らしいところなんです。今、地球で人間が、あらゆる動植物を制覇しているのはなぜか。大部分の人は、「人間は知能がある、他の動植物に比べたら頭がいいんや」と思ってるわけですよ。それは、私は否定はしません。

しかしそれは一つだけの条件であって、もっと他に大きな条件があります。人間は肉体的に強いんですよ。戦争中やったら、海の底を1000m下までずっと掘って石炭とってたんです。今度、「エベレスト上ろうか」ということになる、もちろんトレーニングはいりますが、約9000mの山を無酸素で登るんですよ。ということは、上に対して9km、下に対して1km、この幅10kmの間は人間の生活圏なんです。生活できる訳でしょう。こんな動物ひとつもいやしない。馬でも犬でもこんだけ9km上げて、地下に1kmも下にやったらみんな死んでしまう。人間だけです。そんだけの気圧、酸素分圧に耐えられるのは、動物で人間だけです。

食べるものでもそうです。わたしなんか、戦争中、あるいは戦後早々いろんなノートなんか見ると1000kcal食べてるか、食べへんときありますね。これはなにもダイエットをしているのとちゃうんですよ。食うもんないからや。それで、寝てたんちゃいますよ。人一倍働いてた。そしたらガリガリになってるかっていうと、そうでもない。そのとき、ものすごい吸収がいいんですよ。基礎代謝ゆうて、寝たとき心臓動いてますわな、自動車でゆうとアイドリングですよ、それが、入ってくるカロリーが少ないと、ぐーっと下がるんですよ。ようけ食うてる人はね、基礎代謝が高い。そやから、アイドリング、回転が速いんですね。アイドリングと実際働いてる時のこの差だけが、その人の出力のエネルギーになってますからね。わたしらでも、今でも新入社員の若いやつに「1回飲みに行こう

か」ゆうて行くと、焼肉食うわ、ホルモン食うわ、焼酎飲むわ、ビール飲むわ、水割飲むわ、だいたい計算したら5000kcalぐらい。それでも死なへん。そやから、1000kcalでも5000kcalでも死なへん。

皆さん方、猫や犬飼うてる人多いでしょ。いっぺん、日頃食うてるもの半分にしてみても、あくる日に5倍やったらみんな死にまっせ。(笑) 犬や猫なんか弱いもんや。人間は全然大丈夫。1日絶食して、あくる日に焼肉1kg食うても死なへん。それほどね、人間は強い。肉体的にも強いということです。そのうえに知能をもってるから、これで人間は生物の中の王者と言われてるわけなんです。うちの連中も弱いやつおるんですよ。徹夜してあくる日ちょっと働いてたら「もう、しんどいですわ」「お前なんや。36時間寝えへんでもしんどいことあるか！わしら3日間徹夜しても平気や。」って言うんやけど、みんなインプットされとるんですよ、頭にね。長い時間起きてたら、しんどくなるっていうふうに教えられとるんです。

◆おもしろおかしく仕事をする

一番悪いのはなにかっていうと仕事ですよ。皆さん方、例えばいろんな仕事をだれかに頼んでやってもらって、終わった後になんて言わはりますか？必ず「ごくろうさん」って言わはりますやろ？それから会社から帰るとき「おつかれさまでした」って言いますね。なんでやねん。僕が仕事して会社へ帰りますやろ。そしたら入口の女の子が「おつかれさまでした」。・・・疲れてへんっちゅうねん。(笑)「お疲れになりましたか？」ってゆうてくれたら、「いやいや、元気ですよ」って会話になるけど、こうしてルンルンで帰ってきたのに僕の顔見て、「おつかれさまでした」って決めつけよるんです？「疲れてへん」ってゆうたら、それで二人の間が非常にまずうなるんですね、これ。私の事務所は5階に部屋があって、秘書がおるんですけど、「ごくろうさまでした」・・・苦勞してないっちゅうねん。

「ご苦勞になりましたか？」「いやいや、してません」これは会話になるけど、決めつけるんです。「ご苦勞さまでした」「おつかれさまでした」って。なんでやねん。仕事をしたら苦勞で疲れるって思い込んでしまとるんです。言わされとるんですよ。それで否定したら、「うちの顧問は昼間に仕事に行く行行ってゆうて、遊んどるんちゃうか」って言われるんです。苦勞もせんし、疲れもせんから。これは、人間の生態を知らない。けれども、人間関係を悪くしてもいかんと思いますから、私はもうルンルンで帰ってきても、会社の門が見えたら、疲れたふりをするんですよ。(笑)「おつかれさまでした」「おお、疲れたわあ」「ごくろうさまでした」「いやあ、苦勞したわあ」。そうすると「うちの顧問はあの歳になってもよう仕事しはる」って尊敬の眼差しや。あほとちがうか。(笑)

だいたい人間というものは楽しく仕事したら疲れないんです。いやな仕事したら、疲れるんですよ。皆さん方、そういうたら、自分でもそうやなと思われるでしょ。一番わかりやすいのは、時間ですわ。楽しいことしてたら、時間が経つのがものすごい早いですよ。いやなことやったら、時間がなかなか過ぎない。例えば、税務署やらやってきて、ぐちゅぐちゅやとったら、「ええ加減帰りよらへんかな」と思って「あと何かあるんちゃいますか？」ゆうても「いやいや、ゆっくりさせてもらいます」ゆうて、なかなか時間が過ぎひんのですわなあ。こういう講演会でも、人がたくさん来いひんかったら、主催者の人は怒られるんで、「堀場さんそこから何人来てくれますか」ゆうて、会社に割り当てがくるんで、

いややけど、行くんです。どうせつまらん話やけど、行くんです。1時間の講演を聞いてるんですけど、30分経ち、だんだんしてきたら、時計を見だすんですよ。あと15分の辛抱かと。もう終わるかなと思って見ても、あと12分か。いやなときっていうのはほんまに時間がたたへん。おもしろいときゆうたらね、「ではお時間になりましたので、ありがとうございました」「えっ、もう時間ですか？」ゆうて、これがええ話なんですけど、なかなかそうはいきませんわ。

本当にね、おもしろいときは疲れない、つまらんときは疲れるんです。そやから会社で仕事するにしても、楽しくおもしろくしたら、まず疲れないということはすごいことですね。それにもう一ついいことは、おもしろおかしく仕事したら、能率が高いんですよ。というのは、さっき言うたように、「よし、これが私の好きな仕事や、ようこの仕事をくれよった」って喜んでやったら、ドーパミンが出てきて、脳の働きが活性化する。そうすると、新しいアイデアも出てくるし、どんどん、どんどん仕事の進め方もうまいこといくんです。そやからそれを総合したらものすごく仕事の能率も上がるんですね。3人でしてた仕事がひとりで済むとかね。

これは単に中途半端な話ではなしに、アメリカの労働心理学とか労働衛生学とか発達してるんで、それがいろんな実験してるんですね。いまの「疲れない」っていうのでも、おもしろく仕事をしたのと、上司から命令があったので、義務的にしたのでは、疲労度（血液とか尿の検査とかで疲労のレベルがわかるんですが）が、違うんですね。同じ8時間おもしろく働くと、4時間分とか3時間分の疲れで、8時間の仕事をやれるということですね。

それから、もう一つは能率が2倍、8人でやったことが4人でできるとか、あるいは3倍上ったら、9人でやったことが3人でできるとか。

これは会社にとってもすばらしいことだし、働いてる人たちにとっても、疲れなくて効率が上がれば給料が上がるんだし、疲れも少ないし、いいことですよ。ですから、「おもしろおかしく」仕事をするというのは、ただ単にへらへらとやれというのでなしに、本当に自分のやりたい仕事を、力いっぱいやることによって、どんどんと元気がでてきて、しかも能率が上がるということです。

そのためには、先ほど言ったように「クオリア」というこの気持ちが大切なんですよ。「よし、これをやってやろうか！」「これをやってやることによって、企業も栄え、自分も栄え、そして業界全体も栄え、あるいはこれを買ってくれたお客さんも喜んでくれるんだ」という気持ちで仕事をするのと、「しょうがないねえ、うちの課長もうるさいし、やっとかんとうしょうがないなあ」ってやってるのでは、疲れるわ、能率は上がらんわですよ。

そういう意味では、仕事だけやなしに、私なんかいまルーティンの仕事もってませんけど、他の人から見たら「堀場さん、えらい年寄っても勉強してはりますね」って思われるけど、僕は勉強ちゃうんです。楽しんでやってるんです。今、例えば天文学ですね。おもしろいでっせ、これ。例えば、3万光年ゆうたら、僕ら、3万年前の光を見てるんですよ。僕の姿っていうのは、向こうの星に人がいたら、3万年経ったら僕の姿が向こうにいきよるんです。これけったいな気持ちですやろ。死んでんのか、生きてんのか、わからへん。向こうの人にとっては、「おい、堀場、元気でやっとなで」って3万年先で言われてる。こっちはとっくの昔に、それこそ、「千の風」か「万の風」に乗ってどっか行ってまっせ。（笑）訳わからんけど、おもしろい。宇宙ってどんなになってるかということ、行ったら行っただ、

そりゃ最後、壁ありまっせ。壁に穴開けたら向こう側どんなになってるやろ？こんな思い出したら、これひとつでも夜、本読んでたらおもしろくなって、寝る時間なくなりますよ。

そういう「感激」とか「感動」とかいうのは、別にいくつでも同じことですねん。若い人でも「感激」「感動」にない人もあるし、年寄りでも「感激」「感動」のある人もある。そやから、「いくつまで生きてる気やねん」って言われてもそれはわかるはずないわな。「死ぬときまで生きてるんや」って言います。

◆人間はすばらしい

人間っていうのは、すごい動物ですわ。私は医学の勉強を34歳くらいになってからやっただけです。それまで物理学をやってたんで、物の理屈や、世の中、森羅万象はすべて物理学と化学の法則でいっとんやという頭があったんです。ある動機で、医学の勉強をせなあかんようになりまして、同じ勉強するなら、「よし、博士号取ろう」と思い、論文を書きまして、論文は通ったんですが、私は理学部の出身ですから、「医学の基礎をしっかりと、博士号やらん」って言わはるんですね。結局、口頭試問ということになったんで、1年間会社終わってから、自習で、先生から借りた本を中心に、勉強しました。

それで医学の勉強をして、何を得たかですよ。まあ、人間というか、生物というのは、全然すごい。今、これだけ科学が発達してるのに、アメーバひとつできないんですよ。細胞ひとつできない。最近、再生医学とかゆうて、なんでも「臓器かてできまっせ」ってゆうてますけど、あれは人間の細胞を基にしてるわけですよ。基になる人間の細胞を培養して、将来は、その細胞から、肝臓やすい臓、あるいは心臓作りますよっていうわけです。どっか悪くなったら、自分の細胞で作った心臓を部品で入れ替えましょかっていうような医学まで発達する可能性はあります。でもね、一番、基になるこの生きた細胞っていうのは、絶対できない。私はどっちかというと科学者のほうですけど、これは、神さんが作ったとしか言いようがないんですよ。この人間のすばらしさっていうのは、知れば知るほどすごいんですよ。

僕がよく例に出すんですが、この歳になると友達が、みんな死んでいきますやん、平均年齢過ぎてるんで。で、「はやいことクラス会しようか」言うて、小学校のクラス会をやったんです。で四条のどこやらで待ち合わせにして、僕がちょっと早い目に来てたら、向こうからおばあちゃんが来はるんですよ。「自動車に轢かれはらへんかな」って思ってだんだん近づいてきたら、「あっ、〇〇ちゃん！」。「ちゃん」ですよ。それ、なんとね、12歳のとき、今から72年前に別れて以来、1回も会ったことないんですよ。その12歳の女の子は、18の娘になり、二十歳になり、25で母親になり、40で色気が出てきて、50でますます色気が出てきて、60でちょっとしんどくなって、70でくしゃっとして、80でくしゃくしゃっとなって（笑）、その間、1回も会ったことない。72年前の12歳の女の子が「ぱっ」と出てきて「〇〇ちゃん、元気か？」「あっ、堀場ちゃん、元気？」向こうも知らんけど、すぐわかる。

もしこれをコンピューターでやったらどうですか。画像処理装置なんやらかんやらで。（笑）そんなソフトを作ったらそれだけで何十億かかりますよ。それを2秒間ぐらいで「〇〇ちゃん」ってわかるためには、スーパーコンピューター10台ぐらい、だーっと働かさんかったらできひん、そうでしょう。そこまでいかんでも、初めて会った人を「お？これ

はちょっとややこしいおっさんちゃうかいな」とか「これはなかなか親切そうな人や」とか、「この女の子ええ顔しとるけど、性悪やな」とか、わかりますやん。(笑) これをソフト作ってみいゆうたら、どうなんねん。「目と目が何ミリで、左目と右目が何ミリこっち向いてたら悪者や」ってそんなんわからんでしょ。

人間はふっと見たらわかる。自分のメモリとそれに対する答えと、それだけのセンサーからコンピュータシステムを作るだけでも何百億かかりますよ。「〇〇ちゃん」ゆうても、エネルギー使いませんよ。一方、スーパーコンピュータ10台も並べたら大変ですよ。

人間っていうのは、五臓六腑が全部、精密化学工場ですよ。こんな化学工場を、もし今の最新鋭の化学工場を作ったとしても、エネルギーだけで、人口5～6万の、あるいはものによったら、10万人都市のエネルギーが要るらしいですよ。それをみんなポータブルで持って歩いてるんやからね。そろそろ電線引っ張って歩いてるんと違いますやろ？それ考えたら人間ってすごい。

この間もロボットの学会みたいなんがありまして、その後のパーティで話してました。昔は重いものを持つとか、自動車の組み立てとか、そういうものをロボットの役割や思うてたんですね。そういうのもありますけど、今の関心は、いかに人間に近いロボットを作るかということ。「もし、今の人間にロボット学からみて、いくら値をつけはります？」って聞いたんです。ある先生は、「人間は値つけられへん」って、逃げはったんです。次の先生に聞いたら、「まあなんぼ安くても1千億か」って言わはったんですね。隣の先生は「1千億ではできひん、2千億や」ってゆうて、それがだんだん、だんだん値が上がって、なんと5千億までいったんですよ。

ということは、一番自分は安物やと思ってても、1千億ですわ。(笑) ちょっと上等やと思ったら2～3千億ですわ。わしは、そうとうなもんやと思ったら5千億ですよ。それだけの価値があるんです。今の自然科学の力からみたら、それだけの価値を我々は持ってるです。すごいでしょう？それだけでも今日の話は十分もととれたと思います。(笑)

そやけど、ちょっとそこで問題あると思います。それを聞いた後、うちの新入社員の入社式があったんです。「もひとつ賢そうなやつおらんあ、一番安もんでも1千億かあ」と思って見てたら(笑)、横に労務担当の役員さんがおったんで、「今年の初任給いくらか？」と聞いたら「21万円」かなんか、ゆうてはんねんね。そやけど、これおかしいでしょう？一番安もんでも1千億ですやん？1千億の機械をレンタルしたらなんぼになります？最低でも月に5億は出さんかったら、そんなん借りられへん。初任給21万円。5億と21万円ですよ、おかしいと思いませんか？やっぱり経営者っていうのは、労働者を搾取してるんですね。(笑) これはえらいこっちゃなあと思いましたね。それで、式が済んで、新入社員が役員と握手して、なんて言うたかゆうたら、「堀場製作所へ入れていただいてありがとうございます。」5億を21万まで値切られて、まだ「ありがとうございます。」ってゆうて、それもまたおかしい話やわね。(笑)

ですから、わたしの言いたいのは、人間をはじめとした生命というものと、現在のサイエンスというのは、これだけ格差があるんですよ。20万円と5億円の差が自然科学と生命の差なんです。本当に人間というのは、すばらしい。それをまず思わんといかんのです。

◆京都人として生きる

特に日本人はすばらしい。本当にわたしは日本に生まれてよかったと思います。京都のまちはバランス感覚があると言いましたが、まず日本人は本当にいいバランス感覚を持っていますよ。古いことに対しても造詣があるし、新しいことに対してもやっていこうという気持ちがあるし、そして本当に親切ですよ。ものの憐みということを知ってますよ。

特に日本人の中でも京都というのは代表的なまちですから、京都を大切にせんといかんのですよ。一番始めに申し上げたように、やっぱり京都に生まれたからには、それだけのことをやらんといかん。

欧州には「ノーブレス・オブリージュ」という言葉があるんですが、これは何かというと、「すぐれた人間は必ず、みんなに奉仕せねばならない」という基本的な考えなんです。京都に生まれたということだけで、みなさんものすごい得したわけや。一番すばらしいまちに生まれて。皆さん方、日本に生まれようと思って生まれた人、ちょっと手を挙げてみてください。(笑) いないでしょう。日本に生まれようと思って、生まれた人はいないし、京都に生まれようと思って生まれた人はなおさらいないじゃないですか。生まれてみたら、日本の京都やった。これだけで3億円の宝くじに当たったみたいなもんですねん。

そのお返しとして、何かいうたら、やっぱり皆さん方、毎日の行動に「何か社会のためにプラスになるようなことをしていこう」という気持ちを持っていることが大切です。そんな大それたアクションをせえゆうてるんちゃいます。毎日毎日を感謝する。ちょっとあったゴミを拾う。ちょっと困ってる人を助ける。そういうことの積み重ねなんですね。

◆瞬間を大切に生きる

そういうことで、人間というのはすばらしいんですが、ちょっと問題もあるんですね。人間というのは儚いんですよ。皆さん方、よくこういう標語を聞きますか? 「悩める地球を救え」とか「地球のために」とかね。いろいろ「地球」という言葉が出てきます。我々地球の上に住んでるんやから、地球を大切にせんといかん、それはわかるんですが、「悩める地球を救え」って地球のどこが病気してるんやろ? 地球の一番健康な状態ってどういう状態です?

46億年前に地球は生まれ、人間らしきものが生まれたのが、500万年くらい前としましょうか。46億年の地球から人間を見たらどうなります? 46億年を46歳の人間と仮定しましょうか。そしたら、500万年前というのはだいたい2週間前になります。人類が出てきたのが地球から見たら2週間前です。イエス・キリストというえらい人が出たのが、20分前ですわな。それはそうと、京都に堀場雅夫というすばらしい男がおるんや、これが20秒前に生まれた。(笑) 一生懸命しゃべっとるけど、あと1秒か。(笑) という具合です。

地球から見たら人間なんてそんなもんです。あと300万年か400万年かしたら、どうせ人類は滅びますよ。1千万年以上栄えた同種の動物っていうのはなかなかいない。あと2週間もったとしても、前2週間、後2週間で、4週間。地球からしたら夏休みの出来事みたいなもんですよ。(笑) そんなやつに「地球にやさしく」なんてゆうてもらいたくないわなあ。だいたい、「やさしい」っていうのは、目上の人が目下の人をかわいがるのに「やさしい」っていうのに、なんで2週間前に生まれて、「地球にやさしく」とか「悩める地球を救え」とか、人間は思いあがってるんですよ。

地球っていうのは、いじくりまわすことはできないんです。要するに、人類にとって、「どうか地球さん、怒らんといて。氷河期もあるかもしれないけど、人類の存在する間は、どうか冷やさんといて。」とか「あんまり暖かくせんといて、どうかこれぐらいの状態であと2週間おいといてくれへんか」って頼むのはいいですよ。

だからだいたいいつも僕は「悩める地球を救え」っていうようなことをいう人に聞くんです。地球の健康な状態ってどんな状態か。体温があるわけやないし、咳しよるわけやないし、何が健康で、不健康かわかりしません。CO₂なんて、最初は全部CO₂やったんやから。全部人間がゆうとることなんです。オゾンホールができて、紫外線が当たったら皮膚ガンになりますとか、あんまり水位があがったら沈没してかなわんとかね。これ、全部人間がゆうとことです。地球は別に水面が1メートル上がろうが、温度が10度上がろうが、氷河になろうが、なんにも痛いことも風邪もひきよらへん。そやから、そこに人間の思い上がりっていうのがあるんです。

それはともかくとして、要するに、我々は地球単位から見たら、数十秒しか生きてない。なんぼ長生きしても1秒が2秒になるくらいです。そんなもんですねん。必ず死ぬ。

ですから、私の言いたいのは、毎日毎日というものが大事なんです。この瞬間瞬間が人間の生きてるただ一つの証拠や。我々人間っていうのは、たとえ30秒でも1秒でもバックできませんよ。そやから、本当に自分が生きてるな、この地球に存在してるなっていうのはこの瞬間しかないんですよ。

じゃあ、1秒先、本当にわかりますか？1秒先もわからないんですよ。ここで震度7の地震がきたら、この建物もひっくり返ってみんな死んでしまうわけや。たぶん地震はこないだろうと我々は想像してるだけであって、くるかもしれん。もし5分先のことがわかったら、皆さん大金持ちになれますよ。そやけど、わからへん。1秒先は闇なんです、だれもわからへん。大事なのはこの瞬間、瞬間なんです。自分が生きてる生き様っていうのは、今しかない、この瞬間しかない。

ほな、何をすべきかっていうたら、その瞬間、瞬間を自分の最大の状態において、最大のことをしましよやないかっていうことです。ごはん食べてるんやったら、一口入れたとき「あっ、おいしいな」っておいしいものに集中するんです。仕事するとき、遊んでるとき、一杯飲んでるとき、集中するんです。みな、無為無策に「飯食おうか」「酒飲もか」これではもったいない。あと2秒しかないんやから、みんな。(笑)皆さんは、あと10秒くらいしかあるかもしれへんけど。そんなもんですよ。

人間っていうのは、何千億の価値があるけれど、悲しいかな寿命っちゅうのがあります。そして、1秒先もわからないし、1秒後ろにも戻れない。今あるのはこの瞬間だけ。この瞬間、瞬間というものを大切にしましよ。これが生き方なんです。そのためには、常に五感、五欲というものがあって、いいものは「いい」、すばらしいものは「すばらしい」、「感激する」こんな宝物ないやないですか。「感激する」っていうことは、「自分は生きてるぞ」、「わしはここにいるんだ」自分の存在っていうもの示す最大のものは、「あっ、すごい」って感激できることじゃないですか。

そういう意味で、ぜひ「クオリア」という考え方を皆さんの日常の生活の中に取り入れられたら、今日から同じ自分の家の庭を見ても、同じ旦那さんの顔を見ても、嫁さんの顔を見ても「おっ、お前いけるやんか」ってなるんですよ。つくづく自分の嫁さんや旦那さんの顔を見たことないと思うわ。ほんまに。今日帰ったらいっぺん見てみてください。(笑)

「お、そこそこいけるやんか」と思いますよ。

そういうことで、何をして、何を見てても、そこに自分の心というものの反射があると。そして、こっちがそういうメッセージを送ったら、相手は必ずそれに対して作用反作用の法則で、こっちでぐっとついたら、必ず同じ圧力で返ってきます。そうして、初めてそこで人間対人間の関係もできるし、自然と自分の関係もできる。動物との間もできる、あるいは無機物との間も会話ができる。そして、無為無策の1年間とこの一瞬が同じくらいの価値を持つんです。くどいようですが、1年間1回もグッときてない人は、その1年間無駄に過ぎたわけです。グッときた瞬間にその人たちの1年以上の感激が、自分には与えられるわけでしょ？

ですから、ぜひそういう人間になってほしい。そうして、京都の人がいろんな立場において、いろんなジェネレーションにおいて、グッとくるような人生を送ってもらったら、京都のまちが、ひとりでグググググときよるわけですよ。そしたら、京都駅降りて京都に一步入ったら、「おっ、このまちのエネルギーは」ってグーッと感じますよ。そのインパクトだけで世界の京都になると思いますよ。

◆未来を創る

時間になりました。一つだけ皆さんに贈り物があります。アラン・ケイという1970年の初めに、「20世紀の末には、みんなが持ち歩けるようなパーソナルコンピュータができるんだ」と発表し、この変化の激しいITの分野において、25年間の先を読める男として一躍有名になった人がいまして、マスコミがばーっとその人のところに来まして、「先生、25年も先が読めるなんてすごい。2020年、世界はどうなってますか？」って聞いたんですよ。先生なんてゆうたかと言いますと「そんなもん先のことわかるかいな」(笑)。「じゃあどうして、あの時に25年先にパソコンが誕生するってわかったんですか？」彼は、「未来というものは予測するものではない。予測できない。ただ、未来というものは自ら創るものである。」とゆうたんです。

僕ね、ほんまにこの言葉が好きなんです。未来というものは、さっきから言ってるように予想できない。自分が未来というものを創っていくんです。皆さん方、「自分、将来どうなるんやろなあ」と思ったってわかりません。しかし、未来というものは、「自分がこういう人間になって、こういう人生を送ろう」と思ったときに、その努力によって、その未来というものが自ら創りよる。

「京都、どないなりますんや」って門川市長さんに聞いてもわからへんねん。(笑)わかるはずがない。わかるような人やったら、こんなところろろしとらへん。(笑)未来というものは、京都というものは、京都の市民が「こんなまちにみんなでやりましょう」と言ったとき、初めてできるんです。

ぜひこの「市民フォーラム」で未来の京都を創り上げていきましょう。そして、すばらしい京都にして、そして世界の人から尊敬され、愛され、そして、「京都にいっぺん行ってみたいなあ」という京都に皆さん方と仕上げるのが、この「市民フォーラム」の一番大きな仕事だと思っています。これからひとつよろしく願いいたします。ありがとうございました。(終)